

Park×Art 日比谷から始まる新しい公園のかたち 「Hibiya Art Park2025 -訪れるたび、アートと出会う1ヶ月-」

—2025年4月25日(金)から5月25日(日)まで
日比谷公園「花と光のムーブメント」開催!—

東京都は、四季を通じた花と光の演出によって公園の新しい楽しみ方をお届けする「花と光のムーブメント」を実施しています。日比谷公園では、昨年につき、花と光にアートを組み合わせた大規模アートインスタレーションを通して、公園の新たな一面をお届けします。今年もアートインスタレーションの内容や期間を更に拡大。二つの会期に分けて、パブリックアートとパフォーマンスアートを展開します。大規模な公共空間で繰り広げられる新しいアート体験。さまざまな作品やプログラムを通して、日比谷公園の新しいかたちをお楽しみください。



「Hibiya Art Park2025 -訪れるたび、アートと出会う1ヶ月」特設サイト

https://www.tokyo-park.or.jp/special/2025art_hibiypark/



<特設サイト>

会期：第1期 「Transformed Composition -組み合わせと見立てで遊ぶ-」

2025年4月25日(金)～5月11日(日)

第2期 「“Play”ing Catch -集まり方の練習-」

2025年5月17日(土)～25日(日)

会場：都立日比谷公園(千代田区日比谷公園)

時間：9:00～22:00(5月24日(土)は22:30まで)

入場：無料・予約不要

※第2期のプログラムは一部を除き予約が必要。また、一部有料。

■全体概要

(1) 第1期

第1期は昨年に引き続き、パブリックアートを中心に展開。本イベントは、惜しまれながら今年1月に急逝された^{やまみねじゅんや}山峰潤也氏が、昨年に引き続き、キュレーターとして準備を進めてきた企画。子どもたちの遊び場としての公園と、日本初の近代的洋風公園でありつつも、和洋の造園要素を併せ持つ公園という、日比谷公園の特徴を活かすキーワードとして、「見立て」に着目。借景や華道に代表される「見立て」の技術と、子どもたちの積み木や砂場遊びなどの遊びの中にある「組み合わせ」の概念に焦点を当てたアートインスタレーションを実施します。「Transformed Composition -組み合わせと見立てで遊ぶ-」と題した本インスタレーションには、^{くぼひろこ}久保寛子氏、^{こがねざわたけひと}小金沢健人氏+^{にしはたせいじゅん}西畠清順氏、^{みやざきけいた}ジャコモ・ザガネッリ氏、宮崎啓太氏ら4組のアーティストが参加。

(2) 第2期

第2期は、参加型のプログラムを中心としたパフォーマンスアーツを軸に展開。舞台芸術を中心としたアートマネージャーのコレクティブ^{たけだともや} benchの^{ふじい}武田知也氏と^{ふじい}藤井さゆり氏のプロデュースにより「“Play”ing Catch -集まり方の練習-」と題して、花や昆虫が互いに作用し合いながら進化する「共進化」の關係に着目。日比谷公園という開かれた場でのパフォーマンスアーツのプログラムを通じ、公園内の草花や虫や鳥、大地、光と人間の営みが交わり、共にある世界を体感する場を提供します。期間中は、本イベント期間限定で出現する「維新派屋台村」と野外上映や、蝶だけが知覚する光の世界へと没入する^{こいずみめいろう}小泉明郎氏によるVR作品、参加者と共に焚き火を囲む^{こやまだとおる}小山田徹氏による『^{ひどこ}火床』などの体験型アートプログラムを実施。

■企画内容

第1期 「Transformed Composition -組み合わせと見立てで遊ぶ-」

2025年4月25日(金)から5月11日(日)まで

(1) 作品

① 小金沢健人氏+西畠清順氏による《Forest for Momentum (流れを生む森)》

(会場：第一花壇)

光と鑑賞者の關係性を巧みに演出するアーティスト小金沢健人氏と、世界中を旅してさまざまな植物を収集するプラントハンター西畠清順氏による初のコラボレーション作品。第一花壇のシュロを中心とした直径約28mの空間に、様々な種の植物たちが織り交じり、不思議なジャングルが生み出される。

さまざまな「顔」を有してきた日比谷公園の地で、花と光、雨と煙、夜の闇や太陽など、人も生き物も無生物も現象も、そこに居合わせた存在全てが出会う、新たな「場所」を立ち上げる。



作品イメージ（そら植物園）

② 久保寛子氏 《ハイヌウェレの彫像》（会場：草地広場）と《やさしい手》 （会場：心字池）

久保寛子氏は2つの巨大彫刻作品を展示。《ハイヌウェレの彫像》《やさしい手》は、考古学的な研究リソースを扱う久保の力作であり、様々な文化・時代の彫刻モニュメントを有する日比谷公園の一面を思い起こさせる。久保氏自身が作品一つひとつにおいても多様なリソースを重ね合わせるように、多様性を受け止めてきた場所としての日比谷公園を思わせる作品。2つの彫刻はいずれもライトアップされ、全長20mの巨大な《ハイヌウェレの彫像》は、モチーフである、神の身体から作物が生まれたとする物語さながら、今回のために作品に草花が設えられる予定。

また、ブルーシートを纏い鮮明なインパクトを与える高さ約4mの作品《やさしい手》は、彫刻そのものと共に、これを取り巻く日比谷公園の自然環境に改めて目を向けさせる。それぞれの作品が出現することで、公園の風景として溶け込んでいた草花や水辺などの自然環境が全く違って見えてくる。



《ハイヌウェレの彫像》(2020)「さいたま国際芸術祭 2020」 / 《やさしい手》(2018)「六甲ミーツ・アート芸術散歩 2018」

※今回、開催に先立ち、「ハイヌウェレの彫像」の表面を土で塗り固める土塗りの作業をワークショップにて実施します。詳細は特設サイト参照。

③ ジャコモ・ザガネッリ氏 《Hibiya Ping Pong Platz》（会場：にれのき広場）



《津山ピンポン広場》(2024)「森の芸術祭 晴れの国・岡山」 Photo : Giacomo Zaganelli

イタリアの現代美術家ジャコモ・ザガネッリ氏は、日比谷公園に作家自身がデザインしたピンポン台を持ち込み、人々の交流を生み出す。見知らぬ来園者同士が、ピンポンを通じて、偶発的なコミュニケーションを生み出す、参加型の作品。人と人との関係性、作品と人との関係性を探求するリレーショナル・アートを手掛ける作家によって、来園者は思いがけず遊戯に誘われ、誰にでも開かれたそ

の場所は、時には思いがけない出会いの機会になる。

※会期中毎週末には関連イベントとして様々なゲストを招き、花や植物をテーマにしたトークイベントを行います。詳細は特設サイト参照。

④ 宮崎啓太氏 《巢の構造》（会場：雲形池）



《Draft of Species》 Photo by Arisa Kasai, 2019

長らくロンドンで制作を続けていた彫刻家・宮崎啓太氏は、雲形池の「鶴の噴水」を囲んだ作品を出展させる。華道を傍流に、廃棄された自動車などの金属パーツを、異なる素材と組み合わせて立ち上げる造形は、日比谷公園のシンボルであるこの噴水に花を手向けているようにも、これを守る巣のようにも映る。公園は人々の歴史的な造作が重なった場所であり、作品を通じた先人たちとの時空を超えた対話を通じて、鑑賞者に未来を想像するような刺激を提供する。

(2) コンセプト

「Transformed Composition-組み合わせと見立てで遊ぶ-」

子どもの頃に触れる積み木遊び
組み合わせによって家や車になっていく
そこには「見立て」の源流が流れています
川や池、砂場といった自然の景観の「見立て」は、
日本の造園において、伝統的な技術として使われてきました
その概念は、華道などでも用いられています
本展では、その基本的な見立ての技術に倣って、
現代美術とのコラボレーションを果たしていきます

本展キュレーター・山峰潤也

(3) 会場 MAP

展示作品

- A** 「Forest for Momentum (流れを生む森)」 小金沢健人+西島清順
- B** 「やさしい手」 久保寛子
- C** 「Hibiya Ping Pong Platz」 ジャコモ・ザガネッリ
- D** 「巢の構造」 宮崎啓太
- E** 「ハイヌエレの映像」 久保寛子



(4) マーケットイベント

第1期中の土・日・祝には、キッチンカーを出店し、軽飲食の販売を実施します。アートを鑑賞しながら食をお楽しみください。詳細は特設サイトを参照。

キッチンカー出店日時（予定）

4月26日（土）、27日（日）、4月29日（火・祝）、5月3日（土・祝）～5月6日（火・休）、5月10日（土）、5月11日（日）11:00～19:00



第2期 「“Play”ing Catch -集まり方の練習-」

2025年5月17日（土）から5月25日（日）まで

(1) イベントプログラム

① 維新派屋台村&上映会『透視図』『トワイライト』（会場：にれのき広場付近）

主宰の松本雄吉氏の逝去により、2017年に惜しまれつつ解散した劇団・維新派は、全国を旅するように、それぞれの土地に唯一無二の野外劇空間を生み出し、その土地の風や光、大地と、俳優や観劇者との一体感をつくり出していた。今回の企画では、維新派の2作品『透視図』（2014年）、『トワイライト』（2015年）の野外上映を行う。また、維新派の公演のたびに出現した「屋台村」が、花と蝶をテーマにした仕様でお目見え。上映と共に、人々が集い、一体となる場を設ける。

■上映会日時：

5月21日（水）19:00～『トワイライト』

5月22日（木）19:00～『透視図』

5月23日（金）19:00～『トワイライト』

5月24日（土）20:30～『透視図』

■上映時間：トワイライト 122分

透視図 119分



『トワイライト』（2015/奈良県曾爾村健民運動場） 撮影：井上嘉和

■参加費：無料／事前予約優先制（4月17日（木）正午より予約受付開始。詳細は特設サイトに参照。）

■上演言語：日本語

■その他：小雨決行、雨天中止

■屋台村日時：

2025年5月21日（水）～25日（日）

各日 17:00～22:00

※屋台村では連日、ライブ・パフォーマンス、飲食、物販等を実施予定です。

詳細は特設サイト参照。



『透視図』屋台村（2014／大阪・中之島 GATE サウスピア） 撮影：井上嘉和

② 上田久美子氏 + miu 氏 + 川村美紀子氏による『呼吸にまつわるトレーニングプール-皇居のお堀編-』（会場：つつじ山～三笠山）

日比谷公園は、花や植物、昆虫、生き物にはどのように見えているのだろうか。劇作家／演出家の上田久美子氏は、「呼吸」をテーマに、生き物たちとヒトの呼吸が溶け合い、循環するこの世界を体感する参加型プログラムを提供。日比谷公園に降り注ぐ朝の光に注目し、アーティストの miu 氏と川村美紀子氏をナビゲーター役に、朝方の公園内のつつじ山から三笠山までを巡るツアーを実施する。参加者は、パフォーマーとして日比谷公園に生息するであろう生き物を演じたり、その様子をヒトとして鑑賞するなどして、日比谷公園に降り注ぐ朝の光の中で、呼吸を通じ、生き物や草花、大地や光が混ざり合う様子を感じることができる。



■日時：

2025年5月21日（水）～24日（土）

21日（水） 8:00

22日（木） 8:00／11:30

23日（金） 8:00／11:30

24日（土） 10:30

※小雨決行、雨天中止（25日（日）に振替予定あり）

■上演時間：75分（予定）*終演後、鑑賞者対象ミニワークショップあり

■参加費：無料／事前予約制（4月17日（木）正午より予約受付開始。詳細は特設サイトに参照。）

※本プログラムでは、各回、生き物たちを演じるパフォーマーを募集します。

(稽古・演技経験不要)。パフォーマー役は、アーティストの miu 氏と川村美紀子氏のナビゲートにより、朝の日比谷公園を舞台に「人間ではない生き物」を演じます。

(申込フォームリンク：<https://forms.gle/7piazQtikdnpZU7Z7>)

③ 小泉明郎氏による『火を運ぶプロメテウス』（会場：つつじ山）

現代美術家・小泉明郎氏が VR 作品として制作したアイスキュロス作のギリシャ悲劇「プロメテウス三部作」の最終章である『火を運ぶプロメテウス』を紹介する。本作では、人間がテクノロジーによりまったく異なる存在へと変容し、技術と自然、人間とが一体化する神話的な未来が描かれている。VR 空間の中で、来園者は蝶だけが知覚できる「光」の世界に没入し、自身の輪郭が曖昧となっていく。日比谷公園の自然環境に身を置き、来園者それぞれの知覚が変容していく。



Still image from Prometheus the Fire-Bringer, 2023, image courtesy of the artist

■日時：

2025 年 5 月 17 日（土）～25 日（日）

各日：

13:00／13:30／14:00／14:30／15:00／15:30／16:00／16:30／17:00／17:30

■上演時間：約 30 分

■上演言語：日本語／英語

■参加費：1,000 円／事前予約制（4 月 17 日（木）正午より予約受付開始。詳細は特設サイト参照。）

※本作品は VR のヘッドマウントディスプレイを装着して鑑賞。製品の対象年齢が 13 歳とされているため、13 歳未満のお客様は保護者の同意が必要です。

※雨天の際は実施場所変更。当日受付でご案内いたします。

④ 小山田徹氏による『火床』（会場：芝庭広場付近）

ダムタイプ*初期メンバーで、人が集まる場のあり方の模索と実践を重ねてきたアーティストの小山田徹氏は、最も原始的な光の一つのかたちである「火」で、コミュニケーションの場をつくり上げる。小山田氏が各地で展開しているプロジェクトで、公募で集めた「火守り」と来園者が焚き火を囲んで語らいの場を創出する。会期中には多彩なゲストを招きトークイベント等も実施し、共有の場としての公園の可能性を考える予定。詳細は特設サイトを参照。



OKAZAKI PARK STAGE | ちっちゃい焚き火（薪ストーブ）を囲んで語らう会／ロームシアター京都／撮影：中谷利明

※京都市立芸術大学の学生を中心に作られたアーティストグループ

■日時：

2025年5月17日（土）、18日（日）、21日（水）、24日（土）、25日（日）

各日 18:00～21:00

■参加費：無料／事前予約不要

■火守ボランティア募集について

「火床」という小さな共有空間の中心となる「火」を管理し、場をともに作りあげるサポートを行う、火守ボランティアスタッフを募集します。火の取り扱いや本企画についての事前講習も実施しますので、ご興味のある方は是非ご応募ください。

詳細・申込はこちら（申込フォームリンク：<https://forms.gle/fNoMs4ifW4F1QEaW9>）

（2）タイムテーブル

17土	18日	19月	20火	21水	22木	23金	24土	25日
				維新派屋台村				
				17:00-22:00	17:00-22:00	17:00-22:00	17:00-22:00	17:00-22:00
				維新派上映会『透視図』『トワイライト』				
				19:00-21:00	19:00-21:00	19:00-21:00	20:30-22:30	
				上田久美子+miu+川村美紀子『呼吸にまつわるトレーニングプール-皇居のお堀編-』				
				8:00	8:00 / 11:30	8:00 / 11:30	10:30	
小泉明郎『火を運ぶプロメテウス』								
[全日共通] 13:00 / 13:30 / 14:00 / 14:30 / 15:00 / 15:30 / 16:00 / 16:30 / 17:00 / 17:30								
小山田徹『火床』				小山田徹『火床』			小山田徹『火床』	
18:00-21:00	18:00-21:00			18:00-21:00			18:00-21:00	18:00-21:00

(3) コンセプト

「“Play”ing Catch -集まり方の練習-」

植物は光を受けて、やがて花を咲かせる。

花はその形や色で昆虫や鳥たちに自身の存在を知らせ、香りで誘いかける。

昆虫や鳥たちは蜜を受け取りながら花粉をまとい、同じ花を求めて次の花へと運ぶ。

こうして、花と昆虫は互いに作用し合いながら、共に進化—共進化していく。

観客は、花や光、昆虫といった人間以外の存在のこうした在り方を、

誰にでも開かれたここ日比谷公園での“Play”を通じて新たに知覚しなおす。

この場では、人間と人間以外の痕跡や軌跡が交わり、その線が絡み合い、多様な結び目を生み出す。

それは「他者と共にある集い方」を考える場であり、来るべき災厄に備える私たちの未来への“リハーサル”となるでしょう。

武田 知也

(4) 会場マップ

プログラム

- | | | | |
|---|--|-------------------------------|-----------------------|
| A 屋台村&上映会
「透視図」・「トワイライト」
維新派 | B 「呼吸にまつわるトレーニングプール
—皇居のお堀端—」
上田久美子+mlu+川村美紀子 | C 「火を運ぶプロメテウス」
小泉明郎 | D 「火床」
小山田徹 |
|---|--|-------------------------------|-----------------------|



※整備工事エリアの情報については、特設サイトにてご確認ください。

■PARK-STATEMENT

都立公園は、首都東京の緑の骨格を形成するとともに、ふれあいの場、環境保全や防災、美しい景観など、多様な機能を持つ都市の資産であり、一人ひとりのみなさまにとってのかけがえのない財産です。成長と成熟が両立した都市・東京の実現に向け、東京都は、都立公園全体の機能や価値を向上させるべく、さまざまな取組を行っています。2040年の都立公園のあるべき姿として、豊かな緑を育み次世代に繋ぎ、国内外の人を惹きつける魅力を生み出す、一人ひとりのウェルビーイングに貢献する公園をめざしています。

公園で過ごす時間、公園がもたらす空気、公園を利用するすべての方に、公園の新しい価値を提案、共有したいという想いのもと、都立公園の一部では四季を通じて花と光の演出を行ってきました。また、昨年度は、日比谷公園や葛西臨海公園において、新たに「アート」の要素を取り入れたインスタレーションを行いました。今回、日比谷公園では、

Park×Art 日比谷から始まる新しい公園のかたち

「Hibiya Art Park2025 -訪れるたび、アートと出会う1ヶ月-」

と題し、会期を二つに分け、パブリックアートからパフォーマンスアートまでの多様なアートを通じて、日比谷公園の奥深い魅力に触れて頂くプログラムを展開します。

日比谷公園の歴史を振り返ると、1903年の開園以来、常に新しいものを取り入れ、「新しい文化に触れる場所」「文化の発信拠点」として存在してきました。日本初の近代的洋風公園として、3つの「洋」（洋食・洋楽・洋花）を取り入れた公園としても有名です。現在、東京都では、東京のシンボリックな公園としてさまざまな先導的な取組を行ってきた日比谷公園において、2033年の開園130周年に向け、「バリアフリー日比谷公園プロジェクト」で段階的に整備を進めています。

私たちは、新たな時代に向けての整備過程においても、新しい価値を発信し続けながら、公園を利用するすべての方々と共に想いを共有していきたいと考えています。時代に合わせて進化していく公園。日比谷公園では、国内外の様々なアーティストが「公園」という開かれた公共空間で織りなすアートを通して、新たな発見をお届けします。鑑賞だけでなく体験することで、新たなつながりが生まれるかもしれません。すべての人に開かれ、つながり、「一人ひとりに価値のある場所」としての新しい公園のかたちを、ぜひご体感いただきたいと思います。

■花と光のムーブメントとは

都立公園にて、新たな魅力ある大規模花壇を創出し、四季を通じた花と光の演出によって公園の新しい楽しみ方を届けることを目的に行われている東京都の取組です。

※詳細は下記特設サイト参照

「花と光のムーブメント」特設サイト

<https://www.tokyo-park.or.jp/special/flowerandlight/index.html>



花と光のムーブメント
特設サイト

■注意事項

気象災害等により、イベントや一部サービスを中止・休止・変更することがあります。ご来園前に「Hibiya Art Park 2025- 訪れるたび、アートと出会う1ヶ月 -」特設サイトに最新情報をご確認ください。

【本件に関するお問い合わせ】

Hibiya Art Park 2025 事務局

(エイベックス・クリエイター・エージェンシー株式会社)

E-mail: hibiya_park@av.avex.co.jp

〔問い合わせ先〕

建設局公園緑地部 公園建設課

電話 03-5320-5381

Eメール S0000382 (at) section.metro.tokyo.jp

(公財)東京都公園協会 事業開発課

電話 03-3232-3028

Eメール partnership-bd.sm (at) tokyo-park.or.jp

※迷惑メール対策のため、メールアドレスの表記方法を変更しております。

お手数ですが、(at) を@に置き換えてご利用ください。

日比谷公園について

[所在地] 千代田区日比谷公園

[交通] ●東京メトロ丸ノ内線・千代田線「霞ヶ関」下車（B2）出口すぐ

●東京メトロ日比谷線・千代田線・都営地下鉄三田線「日比谷」下車（A10・A14）
出口すぐ

●東京メトロ有楽町線「桜田門」下車（出口5）徒歩5分

●JR「有楽町」下車 徒歩8分

[問い合わせ先] 日比谷公園サービスセンター

〒100-0012 千代田区日比谷公園1-6

TEL 03-3501-6428（開所時間8:30～17:30）

[「Hibiya Art Park 2025」特設サイト]

https://www.tokyo-park.or.jp/special/2025art_hibiypark/



特設サイト

[「Hibiya Art Park 2025」Instagram]

https://www.instagram.com/hibiya_park_art/



公式 Instagram

[東京都公園協会公式HP] 日比谷公園ホームページ

<https://www.tokyo-park.or.jp/park/hibiya/>



東京都公園協会公式 HP

[東京都公園協会公式X（旧Twitter）]

都立日比谷公園（Hibiya Park, Tokyo）園長の採れたて情報

@ParksHibiya <https://x.com/ParksHibiya>



東京都公園協会公式 X
（旧 Twitter）